

平成27年北栄町議会議員研修報告書

1. 日 時	平成27年10月27日～29日 2泊3日
2. 調査地	鳥取県八頭町 大阪府柏原市 大阪府泉南市 京都府綾部市 兵庫県香美町
3. 調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化の取り組みについて (直営カフェ・通信販売)</li> <li>・ 6次産業化の取り組みについて (ワイナリー・地域協働によるぶどう栽培)</li> <li>・ 6次産業化の取り組みについて (障がい者雇用の促進にむけた農福連携の取り組み)</li> <li>・ 水源の里事業の取り組みについて (限界集落の維持・再生に向けた取り組み)</li> <li>・ ふるさと教育の推進について (学校・地域における取り組み)</li> </ul>
4. 調査結果 又は概要	<p>6次産業化の先進的取組について (3件)</p> <p>「ひよこカンパニー (大江の郷自然牧場)」 (牧場直送こだわり「天美卵」の特徴)</p> <p>①生産性はゲージ飼いの十分の一だが、鶏舎に鋸屑<small>のこくず</small>を敷いて平飼いし、1羽1羽の健康状態に気を配りながら、鶏が砂遊びできる自然な環境を大事にしている。餌にも合成添加物を使わず、独自の配合のものを使う。そんなこだわりが極上の卵を産みだしている。また、リスク分散のため鶏舎を3カ所に設けている。</p> <p>②21年前、脱サラして始めた当初は売れなくて、捨てなくてはならなくなったとき、捨てるくらいならと無料で食べてもらおうと友人や親戚に紹介してもらった。次第に、食べたらおいしいと言うことで口コミで広がった。今では、1コ100円の卵に全国から注文が入るようになった (雑誌で紹介されたことで大きく伸びた)。また、鶏舎近くに天美卵で作ったパンケーキを中心にスイーツのカフェを開業し、山里にもかかわらず県外からも多く来客があり、年間約10万人が訪れる、行列のできる店となっている。</p> <p>③販売方法は、全国からインターネットで注文を受け、採卵後すぐに発送し、翌日には顧客の元へ届ける体制を整えている。顧客対応も専門職員で丁寧に対応している。</p>

「カタシモワインフード株式会社」

(地域協働の産地復活の取り組み)

大阪の大都会に隣接した歴史のあるブドウ生産地のワイナリーを中心に地元の飲食店など地域と協働し、ワイン祭りをはじめ、古民家カフェ、ぶどう畑のレストランなど、いろいろなイベントを実施して集客力を高めることでワイナリー直販店での販売を促進している。また、いろいろなワインの開発、耕作放棄地、ブドウ農家の後継者づくりにむけ、地域協働によるブドウの産地復活に取り組んでいる。

「ハートランド株式会社」

(企業の障害者雇用における農福連携) 1940年から、障害者を雇用しているコクヨ(文具メーカー)が障害者雇用を促進するため、新規事業を模索するなかで水耕栽培によるサラダほうれん草づくりに取り組んでいる。販売先は、大手スーパーやデパート。ヘルシーな野菜スープの加工販売にも取り組んでいる。

「綾部市役所 定住交流部 水源の里振興課」

(限界集落の維持・再生への取り組み)

綾部市古屋は、5軒6人と京都府で一番小さな集落。男性1人、女性5人(85歳から91歳)。この高齢の女性たちがバイクにまたがり集落の山深くまで入り、とちの実を採取して、とちの実を使った手作りの「とち餅」・「とちの実おかき」・「あられ」を販売し、元気に働いている。その取り組みを行政や自主的ボランティア(道路整備、柵の木調査、雪かき、鹿除けネット張り、とちの実拾い、神社修理など、昨年参加者約600人)が支えている。

今では、集落の出身者が古屋の将来をみんなで考えようと言いつてくれるようになり、なかには帰郷を考える人まで出ているという。前は30人、40人の集落に今では年間3000人が訪れるようになった。

「兵庫県香美町教育委員会教育総務課」

(ふるさと教育の推進)

地域の協力を得ながら、自然環境・歴史・文化・人材を活用し、体験を通して先人たちの知恵や苦勞を子供達に伝え、ふるさとへ

	<p>の愛着を育てる教育に取り組んでいる。</p> <p>ふるさと教育実践授業のユニークな体験学習では、地域の歴史に触れる体験活動で、古代生活体験（小学校）、中学を卒業するまでに全員が魚の三枚おろしができるように教えていることや保護者、地域と連携しての米づくり体験で「千葉こき」による脱穀などもある。その他、地場産業の体験学習など地域を丸ごと体験できる沢山の内容になっている。</p>
<p>5. 所 感</p>	<p>「ひよこカンパニー（大江の郷自然牧場）」</p> <p>自然農法にこだわり、高くても安全でおいしい卵が、消費者に受けとめられたと感じた。</p> <p>「カタシモワインフード株式会社」</p> <p>老舗ワイン醸造所の社長のように、地元で愛着をもって、地域の再生に取り組む牽引役の存在は大きい。また、地域と一体になった取り組みが必要だと感じた。</p> <p>「ハートランド株式会社」</p> <p>障害者雇用への理解をもった企業が増えれば、大きな資金力を背景に障害者の社会参加が進む。そのためには、社会的な後押しが必要であると感じた。</p> <p>「綾部市古屋の限界集落の維持・再生」</p> <p>「今が一番幸せです。ちょっと忙しすぎるけど」と普通なら、家でコタツの守をしている年代のおばあちゃん達がそう言っている。</p> <p>いくらかの収入と健康で人と交流し、社会に役立っているという実感、毎日するべき仕事がある。ということが、生き甲斐を生み出していると感じた。</p> <p>「香美町ふるさと教育の推進」</p> <p>学校と地域が連携し、町の将来を担う子供達にふるさとへの愛着心を育てる取り組みは、町の発展にとっても有意義であると感じた。</p>

